

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策)
① 組織的なキャリア教育の取組の推進	① 保護者が興味を持って参加できる進路に関する講演会を年2回行う。	進路に関する講演会(2回)の参加率が A: 70%以上 B: 60%以上 C: 50%以上 D: 50%未満	34%で D	【分析】4月の第1回の進路講演会参加率は44%、2月の第2回の参加率は24%で平均で34%であった。特に第2回目は事前に保護者の知りたい事もアンケートを取り、講師も4人来て頂いたが低い参加率だった。設定した日時に問題があったかもしれない。参加後のアンケートは好評であった。 【次年度の扱い】職員のキャリア教育への意識向上を取組みたい。
	② 児童・生徒の挨拶等の社会的マナーの向上を図る。	帰りに自分から先に挨拶できる児童生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	72%で B	【分析】下校時の挨拶はだいたいの児童・生徒ができるようになってきた。まだ、自分から先に挨拶できない子もいるが、言葉を発しない子も動作で挨拶の気持ちをしっかり示せるようになってきた。 【次年度の扱い】ほぼ達成出来ていると判断して、次年度の取組とはしない。
学校関係者評価委員会の評価		・講演の内容を生活の仕方など身近なものにし、参加しやすい時期にするとよい。挨拶はよくなっている。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方策		・児童生徒のいろいろなことを体験することを大切にしながら、職員のキャリア教育の意識の向上を図っていく。		
② 地域のニーズに応じた教育相談の充実及び外部専門家活用	① 専門相談に際して事前シートを活用し、小中高校において特別支援教育を推進する力の向上を図る。	事前シートを活用した専門相談の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	83%で A	【分析】今年度検査依頼用の事前シートを新たに作成し、対象児童生徒の氏名・生年月日等の必要事項が正確に把握できるようになった。 【次年度の扱い】年度初めに各校へ依頼書と事前シートの書式をデータで送付することにし、通常業務とする。
	② 地域の関係機関や外部専門家と連携し、校内外のニーズに応じた支援を行う。	地域の関係機関や外部専門家を活用した回数が A: 17回以上 B: 16回 C: 15回 D: 14回以下	16回で B	【分析】4月に教育センター指導主事を招いて校内自立活動研修会を行った。また、文科省事業予算によりポーター相談員、大学教授、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の方に来ていただき、12回は校内の、3回は地域の小中学校・保育所の児童生徒への支援の仕方について有効な助言をしてもらうことができた。 【次年度の扱い】来年度も継続して活用を行い、児童生徒の理解・支援を深めたい。
学校関係者評価委員会の評価		・事前シートを活用により、特別支援教育を推進する力の向上が図られてきている。 ・地域の関係機関や外部専門家と連携がよりよく行われてきている。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方策		・地域の関係機関や外部専門家の活用を継続しながら、さらに児童生徒の理解・支援を深める。		

重点目標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策)
③	特別支援教育の専門性と授業力を高める校内研究の推進と充実	① 外部講師を招いた研究授業を通して、課題を明らかにし、授業改善を図る。	授業力向上のための研究授業を、各学部ごとに2回以上、総合計で A：7回以上 B：6回 C：5回 D：4回以下	7回で A	【分析】教科指導等の研究会と県の校内サポート研修の活用で全学部2回ずつの研究授業を行った。また2月には20年経年研修としての研究授業を中学部で行い、目標に到達することができた。 【次年度の扱い】判断基準の内容について検討する必要があるが、引き続き今後も専門性の向上と授業力向上に努めたい。
		② 障害特性や個に応じた教材・教具の開発を図る。	個人や複数で制作した教材・教具の発表回数が、総合計で A：25回以上 B：20回 C：17回 D：16回以下	23回で B	【分析】7月、8月、12月の3回にわたり、各自が制作した教材教具について発表することができた。2回目までにはほぼ全員が発表する形をとり、3回目に複数回目を発表するようにした。具体的な使い方やねらいなどについて説明を聞くことができた。8月には外部から15名の参加があった。 【次年度の扱い】毎年継続して行くことで意識改革を図り、学校全体の財産になっていくので次年度も取組みたい。
学校関係者評価委員会の評価			<ul style="list-style-type: none"> 研究授業がよく行われていて、授業改善がなされている。 教材・教具の発表回数だけでなく、子どもに応じた教材教具を作るようにしてほしい。 		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方策			<ul style="list-style-type: none"> 判断基準の内容について検討しながら、専門性の向上と授業力向上に努めていく。 子どもの実態に応じているかを大事にした教材・教具の開発を図っていく。 		
④	学校安全教育及び環境教育の推進	① 健康教育と感染症対策等の充実、向上を図る。	実践した授業や活動の回数が A：5回以上 B：4回 C：3回 D：2回以下	6回で A	【分析】中学部の給食を残さない為の指導、手洗い指導、歯磨き指導や性教育等の実践授業や感染症予防活動を小、中、高の合計で6回行うことができた。 【次年度の扱い】次年度は今年度の反省をふまえて、授業内容や活動の充実に努力し、継続して実施していきたい。
		② 学部、学年に応じた環境意識の向上を図るため、子どもにわかりやすい実践と特色ある活動を行う。	環境教育の授業を実施できた合計回数が A：5回以上 B：4回 C：3回 D：2回以下	5回で A	【分析】環境教育活動を小学部、中学部、高等部合わせて5回実施することができた。今年度は小学部でもエコカーテン作りに協力した。 【次年度の扱い】次年度の取組により、今年度の反省を踏まえ、6回以上の取組でA評価を目指したい。
学校関係者評価委員会の評価			<ul style="list-style-type: none"> 健康教育と感染症対策の実践がよくなされている。 学校安全教育の面で学校だけでなく、保護者も共有できるようにしてほしい。 		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方策			<ul style="list-style-type: none"> 健康教育と感染症対策等の充実をより図っていく。 学校安全教育で保護者と共有しながら取組を進めていく。 		